

ちゃぶ台から始まる都市。

現代の都市は人間のスケールをはるかに超えた巨大な高層ビル群に囲まれ、都市計画により区画された跡の中で人々は法律や建物に守られて暮らしている。

今回提案するのは人のスケールを元に人の動きによって都市が変化する新しい都市の計画、「ちゃぶ台から始まる都市。」

— 広島県 福山市「2×××年の都市計画」 —

福山大学大学院 工学研究科 建築学専攻
修士課程2年 河田陽依菜



1. 背景

1.1 現代の地方都市の町並み分類

1

町並みが変化し続けている町

再開発や大型商業施設の建設などにより変化し続けている市を中心となる駅前など。

2

戦後の復興から町並みの変化がない町

昔懐かしい雰囲気が残されている。

3

戦後に新しく開発された町

田や山を切り開き、戦後に新しく開発。

2. 提案

現代の都市計画に代わる

「XXXX年の都市計画」

現在人々は町の新しい発展にむけて様々な計画を立てておりこれらの計画は、数年後、数十年後を想定している。「XXXX年の都市計画」は、その計画が実行された後の未来に生じる問題に対しての計画であり、未来の視点に立ち、未来の視点から20XX年の都市を考察する。20XX年がより良い都市になるための計画を段階を追って計画していく。

1.2 地方都市の問題点

(1) 中心市街地の衰退



郊外へ大規模な商業施設の建設が進んだり、新しく住宅街が開発されたりすることにより駅前に訪れる人は減少した。駅前の賑わいを取り戻すため計画をたて、実行している都市もあるが賑わいを取り戻すまでには至っていない。

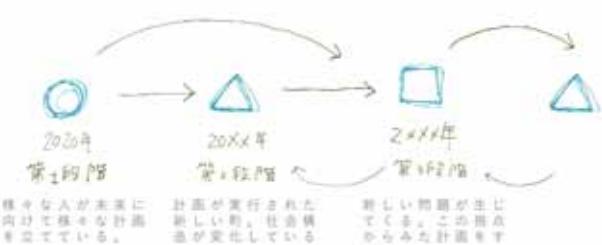
(2) 再開発が行われていない町の将来

戦災復興から一度も再開発が行われていない町は徐々に人口が減少する。しかし、落ち着きのある昭和の町並みは人工的に作り出すことは難しく戦後の建築、町並みも価値あるものとして捉えられる。再開発以外の今後の町の在り方を考える必要がある。



(3) 住宅団地の高齢化

戦後から開発された住宅団地は、働き盛りの30代から40代をターゲットにしており、高齢化も同時に進行していく。それに伴い、空き家の増加、交通機能の低下などの問題が発生している。地方都市の多くの人々の居住の場である住宅団地の問題を解決することはできるのだろうか。



3. 計画都市 一広島県福山市一

(一) 福山市 概要

市域面積：約 518k m² 人口：46万人（2018年3月末現在）

福山市は、広島県の東部、瀬戸内海沿岸のほぼ中央部に位置。市域面積約518km²、人口46万人(2018年3月当時)の中核都市である。現在は転出者数が転入者数を上回るマイナス推移が続いている。中心市街地の空洞化の対策として、駅前の再生を目指す「福山駅前再生ビジョン」が策定され、駅前の開発の計画が立てられている。

(2) 都市マスタープラン

福山市は1998(平成10)年「福山市マスタープラン」を策定。その後見直され、2008(平成20)年に現在のマスタープランを策定した。2019(令和元)年には社会構造の変化への対応とし現在の都市マスタープランに加え「福山市立地適正化計画」が公表された。2050(令和28)年の都市の姿を見据えた基本目標を立てている。



(3) 福山市調査概要

方法：昭和34（1959）年～令和元（2019）年
住民基本台帳を元に世帯数の増減を調査。

- ・世帯数に基づきた町並みの分類を行う。
 - ・大きく増減している部分を調査。
 - ・何がきっかけで町並みが変化するのか推測。

福山市の134の町を
「地方都市の町並み分類」の3つに
基づき分類する。

(4) 福山市分類

1	福山野村村 菊池七郎吉が 生んだといふ村	墓地、今村、生田町、佐野町、城壁町、本村、垂柳町、久之大村、三之大村、元村
2	福山野村村 一里七石の 里子小字名	沼内町、今井町、高見町、野村町、本郷町、神代町、西町、朝日町、佐江町、白石町、片原町、新町、庄町、神代町
3	福山野村村 里子小字名	今里町、生田町、佐野町、佐沼町、佐角町、垂柳町、久之大村、三之大村、元村、日出町、高見町、西町、庄町、神代町、新町、白石町、本郷町、神代町、西町、沼内町、西町、野村町、日出町、佐野町、佐沼町、久之大村、本郷町、神代町、沼内町、白石町、本郷町、神代町、西町、沼内町、日出町、佐野町、佐沼町、久之大村、本郷町、神代町、沼内町、白石町、本郷町、神代町、西町、沼内町、日出町、佐野町、佐沼町



4. 敷地選定

一三之丸 伏見町 日吉台

福山市を3分類した結果に基づき、分類ごとに一つずつ町を選定し、計3つの敷地を選定した。町並みが変化し続いている町、三之丸町。戦後から町並みの変化がない町、伏見町。戦後に新しく開発された町日吉台。伏見町は、2018(平成30)年福山大学工学部建築学科卒業研究で行った「都市の逃げ道—広島県福山市伏見町をかり交渉空間ー」にて計画論であり、今回は三之丸町のみ建築計画としての提案を行う。

1 三之丸町

戦後から大型商業施設の出店が続いている町。福山駅前再生ビジョンの対象エリアでありオフィスと商業施設の複合施設の建設が進行している。

第一段階
2020年

2 伏見町

2018(平成31)年まで開発が行われていなかつたが現在は福山駅前再生ビジョンのエリアである。ビルのリノベーションが進められ「まち宿」の計画も進行している。

第一段階
2020年

3 日吉台

福山市立地適正化計画の居住誘導区域に指定されており、人口を維持させることが目標とされている。またお出かけ支援事業などの高齢者を支える取り組みがある。

第一段階
2020年

5. 共通コンセプト

いつのまにかできる人の居場所。

建物の中に人を収めるのではなく、人が存在し、家具が一つあり、活動することにより空間が生まれる。ひとりひとりの空間を結びつけていくことにより町が生まれ、都市が形成される計画とする。伏見町は、椅子と人との間に生まれる空間である。人間のマイナスの感情に寄り添う「都市の逃げ道」として、駅前に一人のための自然豊かな食べる空間を計画した。日吉台では、机と人と間に生まれる空間とし、人の日常の感情に寄り添う「都市の滞留」として、住宅団地の新しい過ごし方を計画する。三之丸町では、人と活動の関係により生まれる空間を計画する。人のプラスの感情に寄り添った「都市を繋ぐ」として、大型商業ビルではない、新しい駅前の在り方を提案する。



1 三之丸町

戦後から大型商業施設の出店が続いている町。福山駅前再生ビジョンの対象エリアでありオフィスと商業施設の複合施設の建設が進行している。

第一段階
2020年

2 伏見町

2018(平成31)年まで開発が行われていなかつたが現在は福山駅前再生ビジョンのエリアである。ビルのリノベーションが進められ「まち宿」の計画も進行している。

第一段階
2020年

3 日吉台

福山市立地適正化計画の居住誘導区域に指定されており、人口を維持させることが目標とされている。またお出かけ支援事業などの高齢者を支える取り組みがある。

第一段階
2020年

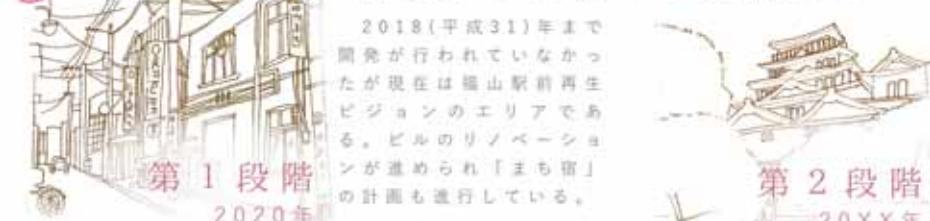
1 三之丸町

2023(令和5)年に複合施設が完成し多くのテナントや企業がはいる。新しく整備された町に入々は興味を持ち集まるようになる。



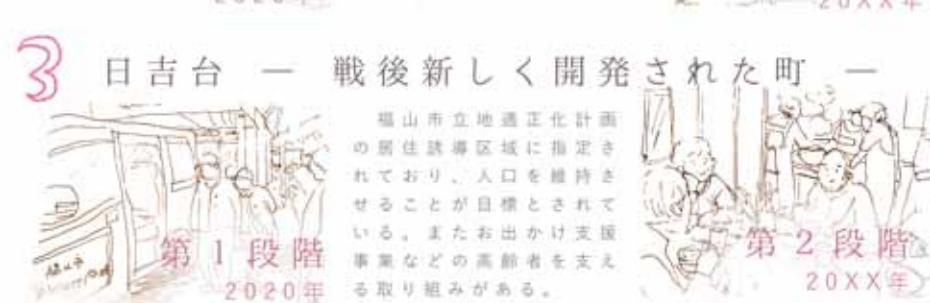
2 伏見町

計画内容が完成し地域の個性が集まつた町として多くの人々が集まる。周辺の観光施設へ向かう観光客の宿泊の場として地域外からも人が集まる。



3 日吉台

高齢者を町全体で支える仕組みができる。高齢者が住みやすい町となる。居住誘導区域に指定されたことにより居住施設が建築される利便性が向上する。



第3段階
2XXX年



第3段階
2XXX年



第3段階
2XXX年

建物が老朽化していく。また福山立地適正化計画などの影響により駅郊外に新しく商業施設が建設されるなどして駅わいの場が郊外に移る。駅前は再び空洞化する。

空洞化とぎわいを繰り返すのではなく持続性のある計画が必要

個性を生かし周間に影響されない計画が必要

他の町とは異なる新しい魅力を持った計画が必要



「都市を繋ぐ」
商業ビルに変わる新しい駅前の在り方



「都市の滞留」
食べる空間



「都市の逃げ道」
これからの暮らし方

高層ビルの寿命が町の寿命。



現在駅前には、高層のビルが立ち並んでいます。

駅前の中には建物によって町はかにちびくられ、

駅前の高層ビルの中には

志からぬた「空き」が存在している。

都市と縫う。 福山市三え九町。 広島県

「都市を解う。として、

人の動きによって町が形成され

自然と法則が生まれるような

新しい駅前の在り方を提案する。

人の動線が
つくる法律。



1. 背景

1.1 郊外商業施設と駅前商業施設



福山駅前の商業施設の始まりは、福山駅前の「福山雄雉ビル」(現:ines FUKUYAMA)である。商業施設は、形や名称、所有者を変えながら継続しているが郊外の商業施設と比較すると訪れる人は少なく衰退している。繁栄期には駅前に6施設あったが現在は4つとなった。

1.2 福山駅前再生 現在の取り組み

現在は福山駅前再生ビジョンをたたき台とし、福山駅前デザイン会議、福山駅前再生協議会などが行われており福山駅前再生ビジョンの更に詳細な計画をまとめた「福山駅周辺デザイン計画」が完成了。三之丸町は「職住混在のスマートでクリエイティブなオフィス街」と位置づけられており、2023(令和5)年に完成予定の複合ビルはこの計画の核となる施設である。

1.3 問題点

建物の寿命とともに計画も
寿命になり町が衰退。

計画の持続性と駅前の
未来を考える必要がある

全国チェーン店による
個性の消失

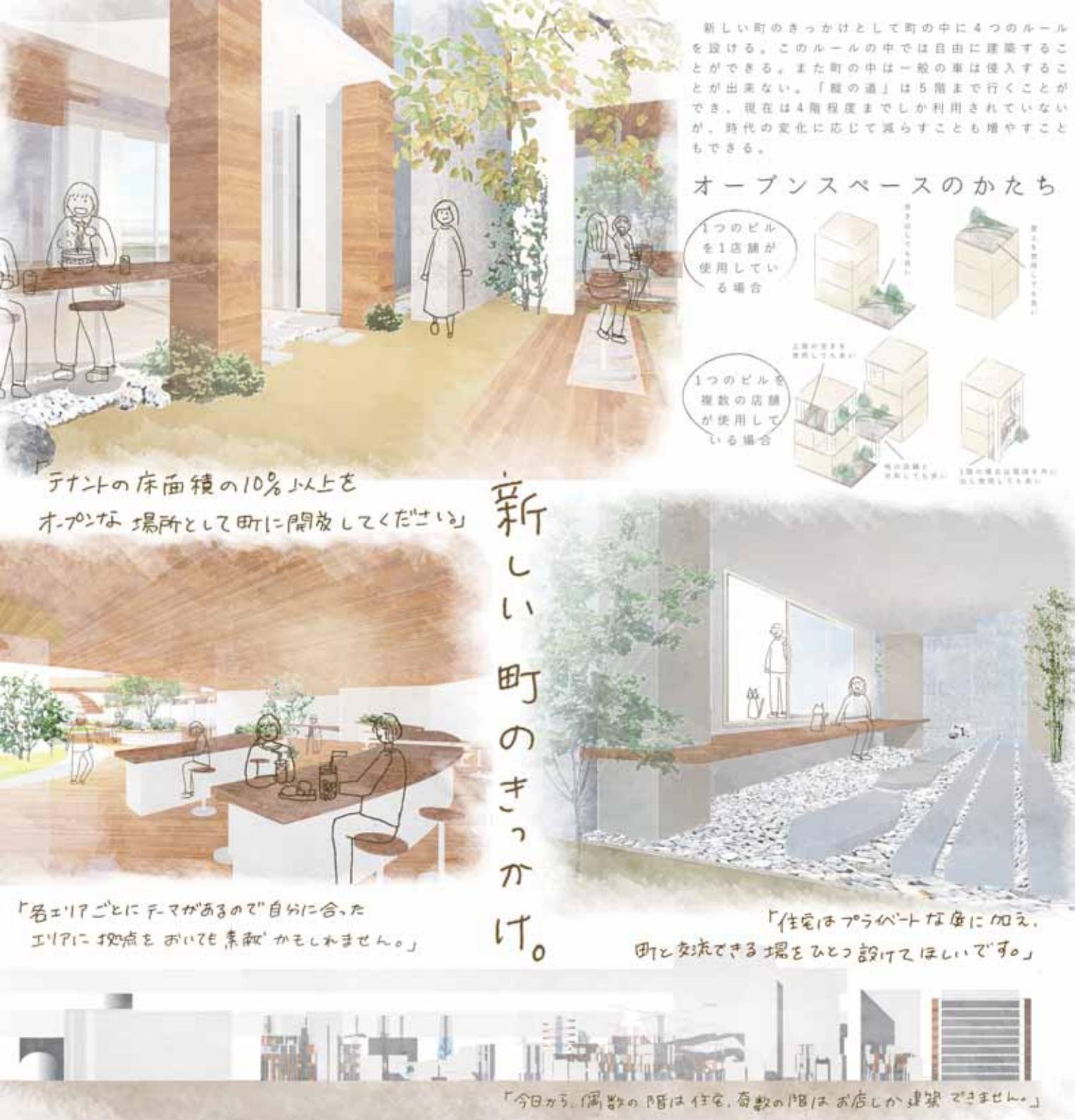
個性を持った店舗。

駅前の再生を行うことにより
新しく郊外の町に問題が生じる。

計画が実行された後の
都市全体の将来を
考えることが必要である。

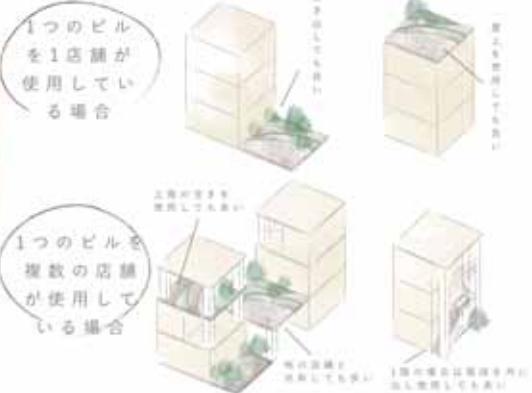
2. 三之丸町 ビル調査





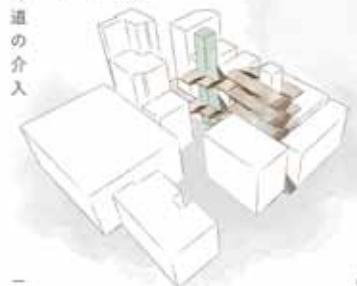
新しい町のきっかけとして町の中に4つのルールを設ける。このルールの中では自由に建築することができます。また町の中は一般の車は侵入することが出来ない。「縦の道」は5階まで行くことができ。現在は4階程度までしか利用されていないが、時代の変化に応じて減らすことも増やすこともできる。

オープンスペースのかたち



3. ダイアグラム

町に分散して様々な形の異なる階段・エレベーターを設置

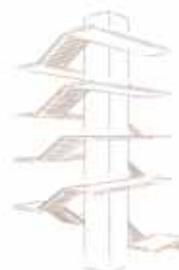


4. 縦の道

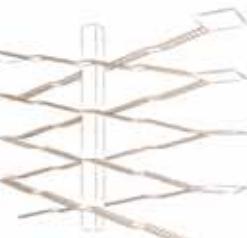
縦い型



探検型



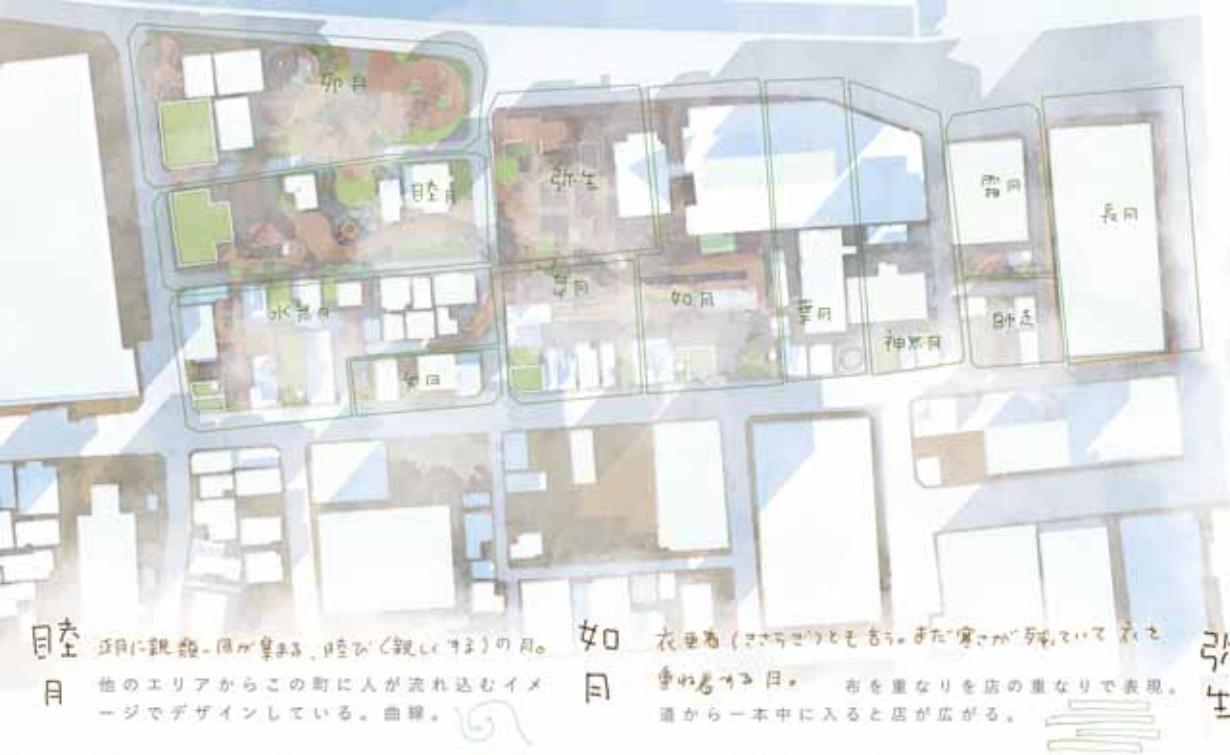
すれ違い型



未来型



大型高層ビルを取り巻く階段。



卯月 正月に親類、田舎が集まる、睦び(親しきま)の月。
他のエリアからこの町に人が流れ込むイメージでデザインしている。曲線。

辰月 衣垂幕(ささらき)ともさう。また、寄(よ)かく方(かた)でいて、ひそかに重ね看(みゆき)き日。 布を重なりを店の重なりで表現。道から一本中に入ると店が広がる。



ゾーニング「和風月名」

計画敷地の中には12のエリアに分類され日本の月の和風の呼び名「和風月名」をもとに名付けられている。オープンスペースの形も月名に併せた意匠で計画している。例えば神無月(10月)に実るイチジクを販売する店舗が「神無月」入ったり、新入生のための制服を販売する店舗は「卯月」(4月)に入ったりすることでより季節感を感じることが出来る町になる。またこの町のオープンスペースは季節ごとのイベントを開催する場合に使用することができ町全体でイベントを楽しむこともできる。

巳月 木草(木の草)が茂る日。
木がお生き茂るような様子を階段や表現している。店や家が花びら。

午月 午の花の月。
卯の花がボツボツと咲く様子を表現している。





白
半
月

早苗(さなえ)と植える月。

このエリアには既存の店舗が多く存在し、苗を植える始まりの場所となる。

水
無
月

北の日で田に水を引く月の農とちむる

細い路地を抜けると豊かに水が流れる。お店の隙間をくぐって探検できる。

文
月

宿へ歩かまほ。

穂が実る様子を階段で表現。この文から睦月のエリアまでスロープを使って行くことが出来る。

葉
月

木々の葉落ち月。

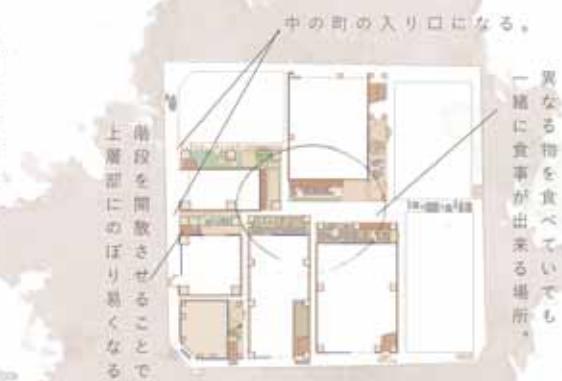
木が茂る場所から徐々に秋への足音が聞こえてくる。

オープンスペースの流れ

既存
1階
平面図



各店舗で相談して路地を計画することに。



2
階
平面図



複数テナントが存在しているビル。
例) 錦走

各テナントの床面積の10%以上をオーブンスペースで設定する。

自然とオープンスペースがつながったり、集まる場ができたりする。

上階で各ビルを繋ぐ廊下をつくることでより豊かな場所が広がる。



長
夜長月。

長い年月を存在するもの。
町の基盤となる代表的な場所。

神無月 神の月の息吹。

建築物や階段を極力なくし神聖さを表現している。細い道を抜けると師走のエリアにたどり着く。

霜相月 霜の降る月。

長月に向かう階段がある場所。既存の店舗も多く存在している。

師走 師匠といえども越えす3月。

一年で一番忙しい月。様々な物や人が集結する場所。このエリアは新規に階段は介入せず既存を生かしている。

「反転」、「拡大」、「縮小」
を繰り返す都市。

現在の都市の再開発の手法は高層の建築物を建築するのみであり、建築物の老朽化に伴い町も衰退してしまう。地方都市に求められるのは町の個性を表現でき、また人の動きによって町がつくられていくことである。人が少ない時代には町も縮小し、人が増加すれば町も拡大するように人に合わせ町も変化することが大切であると考える。

人が減ればそれは町も縮小する。
人が増加すれば町も拡大する。

2XXX年



「拡大」





